

光波：視覚



2016年 6月4日(土)～7月3日(日)

11:00～19:00 ※月曜休廊

入場無料

足立喜一朗 池 亜佐美+川口恵里 北岡明佳 クワクボリョウタ 高橋士郎 時里 充

gallery COEXIST-TOKYO

光波：視覚

2016年6月4日(土)～7月3日(日)
11:00～19:00 ※月曜休廊
入場無料

足立喜一郎

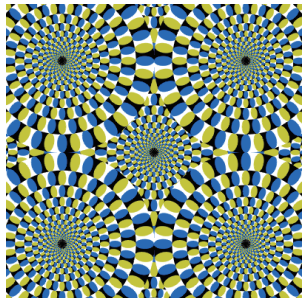
1979年、大阪府生まれ。2004年多摩美術大学環境デザイン学科卒業。自然について考察した作品が多く、その多くは装置のようなカタチをしている。主な展覧会に「Trans-Cool TOKYO (シンガポール美術館、台北市立美術館)」「釜山ピエンナーレ 2010 Living in Evolution」「ミーツ・アート展 (箱根彫刻の森美術館)」等がある。現在、文化庁の若手芸術家海外支援制度にてニューヨークに研修中。



『Parabola』2014年

北岡明佳

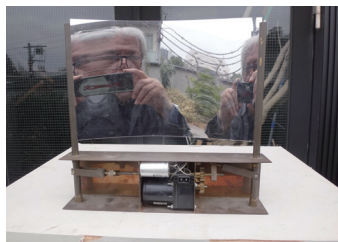
1961年高知県生まれ。1991年、筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了、教育学博士。1991年から2001年まで、東京都神経科学総合研究所・主事研究員。2001年より、立命館大学文学部助教授、2006年より同教授、2016年より総合心理学部教授、現在に至る。



『蛇の回転』2003年

高橋士郎

1943年東京生まれ、造形作家。多摩美術大学大学院修了。元多摩美術大学教授。当時としては極めて先進的であったコンピュータ制御によるアート作品『立体機構シリーズ』を大阪万博 EXPO'70 など多くの展覧会で発表した後、風船を素材として扱った『空気膜造形シリーズ』を考案、世界各地で展開する。芸術の分野にコンピュータやテクノロジーを浸透させた立役者の一人として知られている。



『Waver Mirror』1972年

本展「光波：視覚」は、この世からあの世まですべての事象を「空気 / 音波 (空相)」「液体 / 流体 (液相)」「大地 / 素材 / 加工 (固相)」「生命 / 感覚 / 寸法 / 時間 (この世)」「重力 / 機構 / 構造 (重力)」「電気 / 磁気 (電荷)」「光波 / 視覚 (光)」「記憶 / 認識 / 想念 / 数理 (あの世)」という8つのカテゴリーに分類し、アート作品のヒントとして紐解くユニークな試みであり、全8回で完結する展覧会シリーズの第2回目です。

池 亜佐美 + 川口恵里

池 亜佐美 | アニメーションと音楽を制作。2011年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業、2013年同学大学院映像研究科アニメーション専攻修了。作品は広島国際アニメーションフェスティバルをはじめ、国内外で上映されている。2014年3月あざみ野ナイト「いけあさみの あざみの ビックアニメーションパーティ !!」(横浜市民ギャラリーあざみ野)、「ひかるどうぶつえん」(横浜市金沢動物園)で開放的な空間を生かしたアニメーション上映を行う。

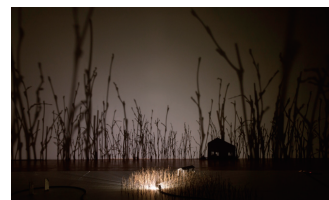
川口恵里 | 2011年多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。2013年東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修了。現在、イラストレーター、アニメーション作家として活動中。



うごくストロボアニメワークショップの様子
Photo: KENTA UMEMA
参考図版

クワクボリョウタ

アーティスト / 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 准教授 / 多摩美術大学情報デザイン学科非常勤講師。現代美術を学んだ後、98年に明和電機との共作『ビットマン』を制作し、エレクトロニクスを使用した作品制作活動を開始。デジタルとアナログ、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる事象をクローズアップする作品によって、「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。2010年発表のインスタレーション『10番目の感傷 (点・線・面)』以降は、観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品に着手している。その他の代表作に『ビデオハルプ』、『PLX』や、Sony CSLに開発参加した『ブロックジャム』、『ニコダマ』などがある。ソロ活動の傍ら、生活と実験のアートユニット、パーフェクトロンの一員としても活動している。



『LOST #7』2012年
参考図版

時里 充

兵庫県生まれ。2010年岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー、2012年多摩美術大学卒業。画面に関する実験と観察を行ない、それを元に作品を制作している。主な展覧会に、「照準と流出」(ASK?, Tokyo, 2012)、「Extended Senses 3rd」(Seoul, 2012)、「いま、映像でしゃべること？」(2013)、エマーゲンシリーズ！022「視点ユニット」(NTT ICG, Tokyo, Japan)、「見た目カウント」(SOBO, Tokyo, Japan)など。



『カメラAとカメラB』2012年

関連イベント

オープニングパーティー

日程：6月4日(土) 18:00～20:00

山川冬樹 ライブ・パフォーマンス+レクチャー『音響身体論 003』

日程：6月10日(金) 受付 18:00～ / 開演 18:30 / 開演 19:00 / 終演 21:15 予定

定員：50名 料金：予約 2,500円 / 当日 2,800円

※ワンドリンクオーダー制 (料金と別途で1階カフェバーにてドリンクをオーダーしていただきます) 申込方法：ギャラリーのウェブサイトからお申し込みください。

ホーメイ歌手 / 美術家。自らの声・身体を媒体に視覚、聴覚、皮膚感覚に訴えかける表現で、音楽 / 現代美術 / 舞台芸術の境界を超えて活動。己の身体をテクノロジーによって音や光に拡張するパフォーマンスを得意とし、歌い手としては日本における南シベリアの伝統歌唱「ホーメイ」の名手として知られる。活動の範囲は国内にとどまらず、これまでに15か国でパフォーマンスを上演。自ら構成・演出を手がけたパフォーマンス作品『黒髪譚歌』、『Pneumonia』(『あいとりエンナーレ 2010』) などもある。パフォーマンス活動の一方で、展示形式の作品も発表。声と記憶をテーマにしたインスタレーション『the Voice-over』(2008年)は、東京都現代美術館に収蔵されている。